



宝くじ助成事業で「浮立衣装」を整備



宝くじの受託事業収入を財源とするコミュニティ助成事業を活用し、北有馬町郷土芸能保存会が「浮立」で着用する衣装一式と太鼓を製作しました。

「浮立」は、島原・天草一揆後に佐賀からの移住者が伝えたと言われるもので、五穀豊穡を祈願して小学生の氏子(浮立子)が独特の衣装を着て笛や揺に合わせて太鼓を叩きます。

10月7日、8日に開催された春日神社大祭で、地元の小学生24人が、整備した真新しい衣装を身にまとい、力強く堂々とした浮立を披露しました。

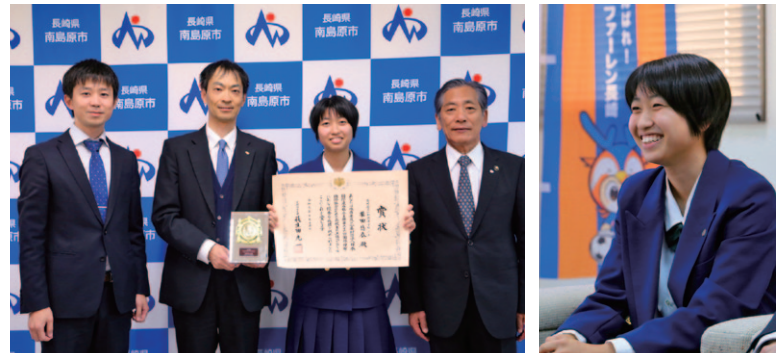
いつまでもお元気で ～100歳おめでとございます～



満田 ミサヨさん(南有馬町)
大正8年11月5日生まれ



古賀 ミドリさん(西有家町)
大正8年11月13日生まれ



国際理解・協力主張コンクールで 文部科学大臣賞

10月15日に東京都の国連大学で開催された「第66回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会(全国大会)」で、栗田悠衣さん(口加高2年)が特賞の文部科学大臣賞を受賞しました。

11月14日、受賞を市長に報告するため、市役所を訪れました。コンクールは国連に関する主張を通して、国際理解などの考えを深めてもらうことを目的とされており、全国235点の応募の中から地方大会などで選抜された25人が中央大会で熱弁をふるいました。

栗田さんは、海に廃棄されたプラスチック製のゴミ問題をテーマに、先生の助言を受けながら何度も書き直して原稿を仕上げ、レジ袋の削減など身近なことからできる取り組みについて訴えました。特賞を受賞した栗田さんを含む4人は、来年3月、国際連合本部(ニューヨーク)の視察に参加する予定です。



女性の農業関係者と懇談しました

10月24日、女性の農業士や農業委員、若手農業者など16人と松本市長が、今後の農業について懇談しました。

参加者からは、農業従事者の担い手について「市内には後継者が多いが、婚活の取り組みが必要。本人や親の意識改革や小さい頃から多様性を認める環境が必要」などの意見がありました。そのほか、以前、各町で行われていた若手女性農業者が悩みなどを共有できる集まりの場の復活を望む声がありました。また、新規就農者への助成の拡充や、新たに農業を始めるときの要件緩和、後継者や新規就農者の育成への協力体制などの課題や意見もありました。

市長は、「今後もこういう機会を設けながら意見交換をしていきたい。本日頂いた意見を検討して、皆さんの思いに添えるように努力していきたい」と話しました。女性の視点ならではの意見や思いを聴くことができた貴重な時間となりました。

※懇談会の概要については、市ホームページに掲載しています。



伝説の大男「みそ五郎」がまちをねり歩く

伝説の大男「みそ五郎」にちなんで毎年行われている「みそ五郎まつり」が11月2日と3日の2日間、西有家町須川商店街一帯で開催されました。商店街通りには、農産物や手作り雑貨などさまざまな露店が軒を連ね、みそ五郎まつりパレードをはじめ、子どもみこしやカラオケのど自慢大会などの催しで大いににぎわいました。

また、2日夜の「みそ五郎まつりの夕べ」では、カラオケのど自慢大会で見事な歌声を披露した山口伸貴さんら4人が、表彰を受けました。

紅白歌合戦に出場したことがあるゲスト歌手の三山ひろしさんが登場すると、会場に詰め掛けた1,200人を超える観客から大歓声が上がりました。



震度5強の地震を想定して防災訓練

10月27日、須川港多目的防災広場と深江体育館で防災訓練を実施し、地元住民、消防関係者、市職員など約600人が参加しました。

訓練は、震度5強の地震の発生を想定し、地元の人たちの避難訓練に始まり、土のう積、救護活動、初期消火などの実践訓練のほか災害伝言ダイヤル、火事を想定した煙体験などが実施されました。

また、防災ヘリを使用し上空からの平成新山の火山活動や溶岩ドームの状況の目視確認も行いました。

車えびの出荷が最盛期



11月15日、深江町漁協の吉田組合長と関係者が、車えびの出荷開始を市長に報告するため、市役所を訪れました。

吉田組合長は「今年の車えびは昨年以上に型が大きく、味・色・艶も非常によく育成している。ぜひ、たくさんの人に食べていただきたい」と話しました。毎年、歳暮や年始の贈答品として喜ばれており、全国へ活かたまま届けられます。

ただきたい」と話しました。毎年、歳暮や年始の贈答品として喜ばれており、全国へ活かたまま届けられます。

Focus in 南島原 まちの話題



来館者数10万人突破！ 有馬キリシタン遺産記念館

11月5日、有馬キリシタン遺産記念館への来館者数が10万人を突破し、10万人目の来館者となった神奈川県藤沢市の鎌田弘毅さんへお祝いの花束と島原手延そうめんなどの記念品を贈りお祝いしました。

鎌田さんは今年5月から来年1月まで、バイクで日本一周のひとり旅を続けており、道中でのラッキーハプニングに対し「こんなことは初めての経験で、運を使い果たしたかも！」と述べ、記念館内の展示品などに興味を示し、時間をかけて熱心に見学しました。また、南島原市の印象について、「いろんなところを巡りましたが、海岸線が本当に美しいですね」と笑顔で話しました。



消防スケッチ大会で 最高賞に輝く

島原地域広域市町村圏組合主催の第38回消防スケッチ大会で、応募総数608点の中から、山下秀真さん(布津小2年)の作品が最高賞である管理者賞に輝きました。

作品は、画用紙いっぱいを使って消防車が色鮮やかに描かれ、小学生の目から見た消防車の大きさや迫力がよく表現されています。